



オープニングセレモニーのテープカット。  
左から熊谷教育長、門脇市長、にかほ市教育委員会の齋藤光正教育長、青柳市議会議長。

4月17日、角館町平福記念美術館で開館30周年を記念した企画展「池田修三作品展―版画で魅せる花・人・秋田―」が始まりました。  
にかほ市象潟町出身の木版画家・池田修三氏の作品をにかほ市象潟郷土資料館から借り受けた同展では『花・人・秋田』をテーマに池田氏が描いた少女や風景画など約140点が展示されています。

### 池田修三作品展

―版画で魅せる花・人・秋田―



企画展は5月31日まで開催。池田氏の心温まる作品の数々をご鑑賞ください。仙北市民は入館料無料です。

当日は、開催に先立ちオープニングセレモニーが行われ、関係者約20人が出席しました。  
セレモニーでは、作品を貸し出していただいたにかほ市教育委員会の齋藤光正教育長が「にかほ市の偉大な先人である池田修三氏の作品展を開催していただき、心から感謝申し上げます。今後先人の作品を通して両市の交流の輪を広げ、深めていきたい」と述べました。

### しっかり守ろう交通ルール

#### 交通安全教室

4月27日、生保内小学校グラウンドを主会場に、交通安全教室が開催されました。

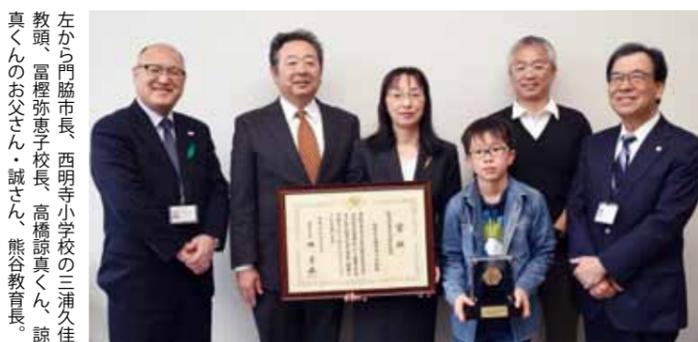
当日は、全校児童とだしのこ園の園児たちが参加し、学年ごとに交通安全について学びました。

天候にも恵まれ、グラウンドに設営された訓練用の路上で、児童たちは正しい横断歩道の渡り方や安全な自転車の乗り方について熱心に指導を受けていました。



横断歩道を渡るときは気をつけてね！

### 西明寺小に 創意工夫育成功労学校賞



左から門脇市長、西明寺小学校の三浦久佳教頭、富樫弥恵子校長、高橋諒真くん、諒真くんのお父さん・誠さん、熊谷教育長。

科学技術に携わる方の意欲の向上を図り、科学技術の水準の向上に寄与することを目的として毎年行われている「平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」で西明寺小学校が創意工夫育成功労学校賞を受賞しました。

児童の創意工夫の育成に顕著な成果をあげた学校に贈られる同賞には、全国から23校が選ばれ、西明寺小学校はドローンを活用したプログラミング学習の推進やくりっこサイエンスクラブの研究活動が評価され今回の受賞となりました。

西明寺小学校の富樫弥恵子校長は「今回の受賞を励みに、これで終わりにせず、今後も活動を子どもたちと一緒に継続していきたい」と話していました。また、くりっこサイエンスクラブの高橋諒真くん（6年）は、学校での活動について「ドローン学習やクラブの色々な実験はとても楽しい」と話していました。

古城山から眺める松木内川堤のソメイヨシノ。



### 角館の桜まつり

4月20日から5月5日まで、角館の桜まつりが開催されました。  
初日には、開幕に先立ち松木内川堤前の特設会場でオープニングセレモニーが行われ、関係者による鏡開きやおやま囃子が盛大に披露されました。  
当日は、角館小学校の4年生約70人の児童が松木内川堤や武家屋敷通りで「さくらの町の案内人」

ライトアップされた武家屋敷通りのシダレザクラ。



と称して、訪れた観光客に桜や武家屋敷の歴史、角館の魅力などを熱心に説明していました。  
開幕当初はつぼみだった武家屋敷通りのシダレザクラは4月25日に、松木内川堤のソメイヨシノは27日に満開を迎え、全国から綺麗な咲き誇った桜を一目見ようと多くの観光客が訪れ、色づいた桜を堪能していました。

初の試みとして、デザイナーによるライトアップが武家屋敷通り北側約200mにわたり行われました。シダレザクラが白の発光ダイオード(LED)電球で照らされ、闇夜にきれいな花を咲かせました。



艶やかなおやま囃子で、会場は華やいだ雰囲気。



開幕を祝う鏡開き。



「さくらの町の案内人」も活躍。

### 音楽で彩る明るい未来を ~高橋優さんの野外音楽フェスが決定!~

横手市出身のシンガーソングライター・高橋優さんが企画する野外音楽フェス『秋田 CARAVAN MUSIC FES』が9月1日、2日に田沢湖生保内公園野球場で開催されることが決まり、4月26日に田沢湖庁舎で高橋さんと門脇市長が記者会見を行いました。

この野外フェスは、高橋さんがデビュー当時から思い描いていた「音楽で秋田を盛り上げたい」という熱い思いで、県内13市をすべてめぐるキャラバン型のフェスを目指し、2016年から横手市、由利本荘市と続き、仙北市で3年目を迎えます。

会見の中で高橋さんは「田沢湖は高校の陸上部で雨の降る中、足を怪我しながら湖畔を走った青春の思い出の地。このフェスは毎年ゼロからスタートのようなもので、毎年チャレンジがテーマ。県外の方に秋田県、仙北市の魅力を知ってもらおうというのはもちろん、自分自身も知ってきたい」と話しました。両日、高橋さんのほか複数のアーティストが出演予定で、後日公式ウェブサイトで発表されます。



記者会見に臨む高橋さん(右)と門脇市長(左)。

#### 高橋さんへ一問一答

Q: 仙北市を開催地として選んだ理由は?  
A: 早い段階から「仙北市でやりませんか?」と、お話をいただいていたので。

Q: 第1回・第2回と、お笑い芸人の方などバラエティに富んだ出演者が話題になりましたが、今年も期待してよいですか?  
A: 出演者の方々と相談して、コラボレーションできたらなと思っています。

Q: 昨年、秋田県と『秋田 CARAVAN MUSIC FES』がタッグを組んで、由利本荘市だけでなく秋田県全体の魅力を伝えるPRマガジンを制作しましたが、今年も発行しますか?  
A: 発行する予定です。

Q: ふるさとの音楽の力は、どのように感じていますか?  
A: 自分自身も音楽に背中を押してもらって生きてこれました。何か新しいことを始めてみようかなとか、秋田県で何か始めてみようかなと思ってくれる人がいたら、意味があることなんじゃないかなと思います。

Q: 田沢湖から数キロの会場ですが、楽しみにしていることは?  
A: 当日は田沢湖を見る時間はないと思いますが、会場に来てくださる皆さんの表情を見るのが楽しみです。

Q: 秋田の人に「音楽の力で元気になってほしい」というメッセージでこのフェスを開催していますが、3年目の今年について県民の皆さんへメッセージを。  
A: 音楽が誰か1人の人生にとってどれくらいの影響を及ぼすのかわかりませんが、ほんのちょっとしたきっかけになれば、やる意味があると思っています。老若男女の皆さんに来ていただけるようにするのは「年齢に関係なく夢を持ってほしい」「明るい未来と一緒に想像できたらいいな」というメッセージであると思います。明るい話題を1つでも多く作って「明るい未来はきっとあるんだ」と、みんなで信じられるような時間を一緒につくってきたいです。

### IoTの農業分野での利活用について



参加者は、生産性の向上や付加価値の創出につながるヒントを学びました。

4月20日、仙北市と産業振興に関する連携協定を締結しているインフォテリア(株)の松村宗和さん(ネットサービス本部エバンジェリスト)を講師に迎え、市内認定農業者約30人を対象に講演会を開催しました。農業分野におけるセンサーや通信機器の活用事例とその可能性についてのお話で、参加者からはたくさんの質問が出され、今後の農業のあり方について積極的な意見が交わされました。

薄紫色の絨毯広がる かたくり群生の郷  
4月18日から5月5日にかけて、西木町の八津・鎌足のかたくり群生の郷が開園しました。西木町の特産品「西明寺栗」の栗園に、かたくりの花が一面に広がり、連日多くの来園者を楽しませました。来園された方々は、思いおもいの場所で眺めたり、写真を撮ったりしていました。



可憐なかたくりの花々は息をのむ美しさ。

## 仙北市×(株)秋田銀行 納付書読取型クレジットカード納付推進協定締結式

仙北市では、4月1日から市税等をコンビニ・ゆうちょ銀行・電子マネーで納付できるサービスを開始しております。

5月1日からは、市が発行する市税等納付書のコンビニ収納用バーコードをスマートフォン等で読み取りし、クレジットカード情報を登録して支払ができる「納付書読取型クレジットカードサービス」が新たに始まりました。

4月27日には、運用にあたりサービスの円滑な運用に関するサポート、PR活動などの連携を定めた協定を、サービス提供協力会社の立会のもと、(株)秋田銀行と締結しました。

締結式で門脇市長は「市民の方々のわずらわしさを解消し、納税環境が大きく飛躍することを期待している。また、高齢者や時間の制約があつて窓口に行くのが難しい方々が、365日24時間自宅に居ながらクレジットカードで納付でき、一段と市民の皆さんの利便性に寄与できる」と述べました。

(株)秋田銀行の新谷取締役頭取は「クレジットカード納付サービスは県内で仙北市



協定締結後、握手を交わす(株)秋田銀行の新谷取締役頭取(左)と門脇市長(右)。

が初で、納付書読取型クレジットカードサービスは、東日本で仙北市が初めての画期的なシステム。支店の窓口を通じてこのシステムを推進し、これに限らず、住民の皆さんや国内外のお客様へも、利便性の高いサービスを提供していきたい」と話しました。協定締結後には、納付のデモンストラーションも行われました。

### 高村和人選手が出場報告で来庁

4月25日、田沢湖生保内出身で平昌冬季パラリンピックのノルディックスキーマジックとバイアスロンの男子日本代表として出場した高村和人選手が市役所田沢湖庁舎を訪れ、門脇市長に出場報告をしました。日本選手団の中で視覚障害が1人だけだった高村選手は、4レースに出場し、前半のバイアスロン7.5キロとスキー距離のスプリントクラシカル15キロはどちらも15位、後半のバイアスロン15キロで13位、10キロクラシカルでは11位の成績でした。



パラリンピックの報告と今後について話す高村選手。

4年後の北京パラリンピックに向けては「練習環境や様々な課題をクリアできればチャレンジしたい」と思っているが、大舞台でなくても小さな大会でも自分が出場することで、勇気を持って前に進んで欲しいというメッセージを伝えることができると思っている。形はわからないが、色々なことに挑戦していきたい」と今後の抱負を語りました。

また、現地に応援に訪れた家族について「会場ウォーミングアップをしていると息子の『お父さん!』と叫んだ声はびっくりと聞こえた。とても嬉しかったし、力になった」とレース前のエピソードを語ってくれました。